

平成30年 5月 9日

岐阜県立飛騨高山高等学校

国土交通省高山国道事務所

ビオトープ“飛騨の森再生”における水生昆虫・樹木生育調査 ～飛騨高山高校の新1年生が環境学習に参加～

1. 概 要 : 高山西IC内に設けたビオトープ“飛騨の森再生”において、平成22年度から飛騨高山高校生徒が環境学習を実施しています。
今年度最初の実施になる今回は1・3年生生徒70名が、春に見られる水生昆虫（トンボのヤゴ等）の捕獲・識別実習と樹木の生育調査等を行います。
2. 日 時 : 平成30年 5月16日（水）10:00～12:00（3年生）
平成30年 5月21日（月）10:30～12:00（1年生）
3. 場 所 : 中部縦貫自動車道高山清見道路 高山西インターチェンジ内
ビオトープ“飛騨の森再生”（高山市清見町牧ヶ洞地内）
4. 参 加 者 : 岐阜県立飛騨高山高等学校 環境科学科 3年生36名
1年生34名
5. 添付資料 : 別紙1～3のとおり
6. 配 布 先 : 高山記者クラブ
7. 問合せ先 : 岐阜県立飛騨高山高等学校 山田キャンパス
環境科学科 原 康彰（はら やすあき）
TEL 0577-33-1060
FAX 0577-32-8994

国土交通省中部地方整備局 高山国道事務所
計画課長 奥田 清典（おくだ きよのり）
TEL 0577-36-3822
FAX 0577-36-3801



高山西 I C ビオトープ “飛驒の森再生”

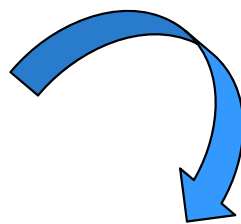
1. ビオトープ“飛驒の森再生”整備

中部縦貫自動車道高山清見道路の建設により、動植物の生息・生育環境が分断され、従来の自然環境が大きく変化する可能性がありました。そのため、インターチェンジ内を『飛驒の森再生』として位置付け、調整池の自然利用及び周辺植生の遷移促進を含めた計画をし、平成16年11月に高山清見道路（飛驒清見 I C～高山西 I C）の供用と同時にビオトープが完成しました。

さらに、平成22年7月には、飛驒高山高等学校と高山国道事務所で「維持管理に関する協定」を締結し動植物の生息・生育環境創生に取り組んでおります。



整備直後(H16. 11)



現在の生育状況(H29. 5)

2. 現在のビオトープの状況

完成してから13年が経過した調整池を含むインターチェンジ内の環境は大きく改善し、ビオトープに移植した根株・貴重植物ともに生育状況は良好です。また、周辺域から在来種も入り、ビオトープ内は調整池や植生の変化に併せて、両生類（カエル）や昆虫類（トンボやバッタ）などの定着も順調に進み、生物の多様化が進んでいます。

また、同校との協働による継続的な維持管理活動により、貴重な植物が繁殖又は再確認されるなど、様々な動植物の生息・生育環境が維持されています。

確認された重要種など

陸域



移植した重要種
(キキョウ)



確認された重要種
(マルタンヤンマ)

水域



確認された重要種
(モリアオガエル)



確認された重要種
(ミズオオバコ)

3. 学習内容

今回は、環境科学科3年生36人が参加して、ビオトープ内調整池において、春に見られる水生昆虫（トンボのヤゴ等）の捕獲・識別実習と樹木の生育調査等を実施します。

初めてのビオトープでの授業となる1年生34名については、ビオトープの全体像を把握し、今後の環境整備や環境調査の内容を理解するためにビオトープ全体を見学するとともに、水生昆虫の捕獲、樹木の生育調査を実施します。



【ビオトープ内の調整池】

①水生昆虫の捕獲・識別実習

ビオトープ調整池は、カエル類やトンボ類、ドジョウ等様々な生物の生息生育環境となっています。今回は、ビオトープに生息する水生昆虫を捕獲し観察を行い、種の識別を行います。



水生昆虫(トンボのヤゴ等)の捕獲(H29.5状況)



捕獲した水生昆虫の識別(H29.5状況)

②樹木の生育調査等

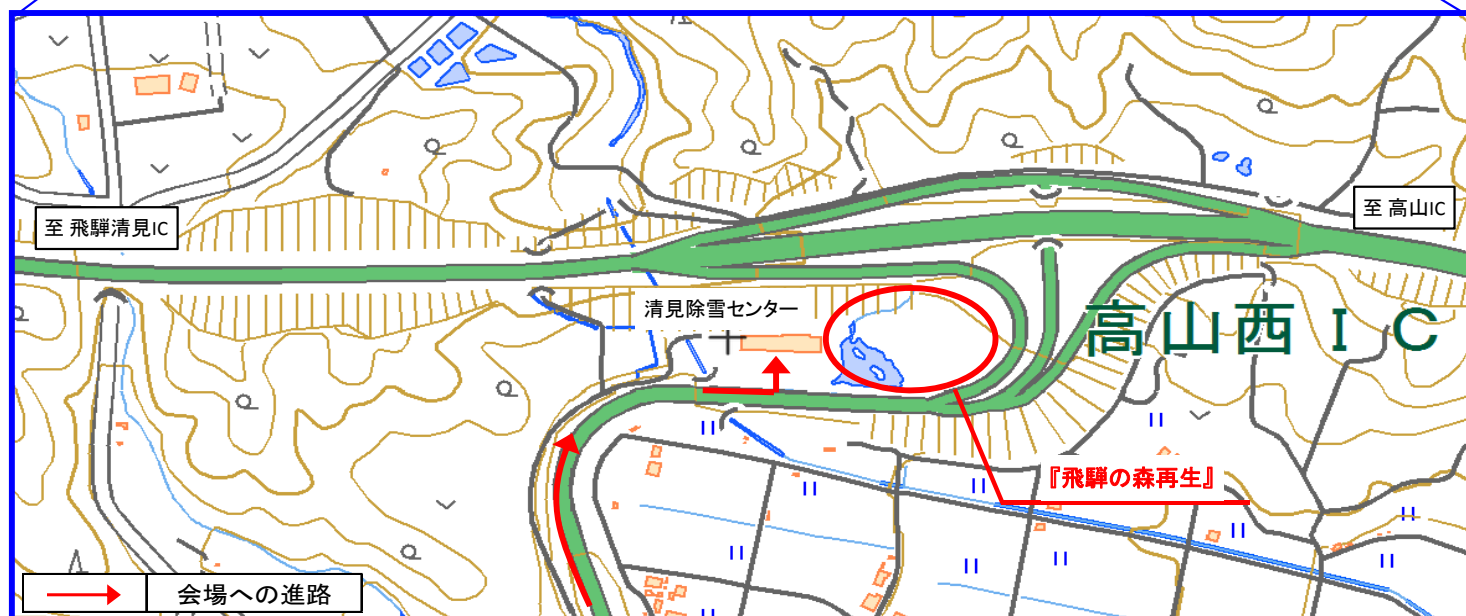
ビオトープ内に生育している樹木について位置図を作成し、毎年樹木調査を行ってきました。今回は、これら経年調査を行っている樹木について、成長の度合いを調べます。



樹木の葉、樹形の観察(H29.5状況)

環境学習 実施位置図

実施場所：高山西IC内ビオトープ「飛驒の森再生」



取材希望がございましたら清見除雪センターにお集まり下さい。